

# ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

2

No.732

特集……P2

## 福祉現場で働く 人材の確保・定着に向けて

みんなでつくるひょうごの福祉……P6  
～兵庫・但馬国から被災地へ～  
「コウノトリの箱庭」運動

あなたのまちの社協ナビ……P7  
宍粟市社協  
宍粟での新しいつながりのカタチをつくる

地域を駆ける! ワーカー物語……P8  
銭湯のようなホッとできる、  
温かな人の和をつくりたい!!  
伊丹市社会福祉協議会 かねだ みき 兼田 美紀さん

兵庫県からつなぐ被災地支援……P9

県社協ニュース……P10

愛ちゃんと希望くんの共同募金NEO……P11  
みんなの広場

2月は  
「はたちの献血  
キャンペーン  
月間」だよ!



# 福祉現場で働く人材の確保・定着に向けて



誰もが安心して利用できる福祉サービスが提供されるためには、それぞれの現場に優れた専門職が存在することが不可欠である。

少子高齢化時代を迎え、福祉・介護の担い手がますます求められている中、兵庫県が策定した「福祉人材確保推進プログラム」は3年計画の終わりを迎えようとしている。

今号では県社協を中心とした取り組みを報告し、今後の課題や必要な対策を考える。

待たなし！福祉現場を支える担い手確保の問題

少子高齢化の進行や一人暮らし世帯の増加などにより、福祉サービスの需要は拡大する一方である。厚生労働省のデータによると、今の福祉サービス水準を維持する場合、平成19年度から37年度にかけて、高齢者分野だけでもさらに95万人、138万人の介護職員が必要と言われている。

一方で、福祉現場では慢性的な人手不足を訴える事業所が多く、人材確保に頭を悩ませている。特に、正規職員の介護職員の大量採用、大量離職が顕著である(※)。

量の確保だけでなく、質の高い人材確保も重要な課題である。社会福祉の専門性は、利用者のできないことを福祉サービスの提供で埋めることではなく、本人による問題解決やその人らしさの発揮に向けたかかわりがある。例えば認知症高齢者や障害者の暮らしを支えるためには、本人・家族へのかわりだけでなく、制度外のサービス

や活動を含めた地域の幅広い社会資源とのネットワークづくりや、時には新しい資源づくりが求められる。さらに、虐待などの深刻な課題への対応、引きこもりや就労支援といった幅広い領域への対応が求められるなど、その専門性は多様化している。

※平成22年度「介護労働実態調査」

兵庫県の人材確保対策「福祉人材確保対策推進プログラム」から

深刻化する福祉人材の不足を受け、平成19年に国は14年ぶりに「福祉人材確保指針」を見直した。また、平成20年に兵庫県社協は「福祉人材の確保と定着に関する調査研究報告書」を発行し、実態から見える取り組み方策を提言。これらを受け、兵庫県は平成21年度から3か年を計画期間とする「福祉人材確保対策推進プログラム」を策定した。同プログラムで整理した福祉人材の確保・定着を巡る課題と対策は図表1のとおり。

プログラムに基づき、県社協をはじめ労働局やハローワーク、社会福祉事業の経営者、職能団体などの関係機関が3年間にわたり、各種の対策事業に取り組むこととなった。

次に、プログラムに基づく県社協の取り組みを紹介する。

- 福祉人材の不足～課題は何か～
- 雇用のミスマッチがある
  - 資格を持っているが福祉職に従事していない潜在的有資格者が多い
  - 給与・処遇面で職場環境が不十分である
  - 職場の人材育成力が低い
  - 福祉・介護業務への理解が低い

- 取り組み方針
- ①多様な人材の参入を促進する
  - ②福祉人材の定着・キャリアアップを支援する
  - ③法人・事業所の経営を強化する
  - ④法人指導を推進する
  - ⑤福祉・介護サービスの周知・理解を促進する

図表1 福祉人材の確保・定着の課題と対策 (兵庫県福祉人材確保対策推進プログラム/平成21年3月より)

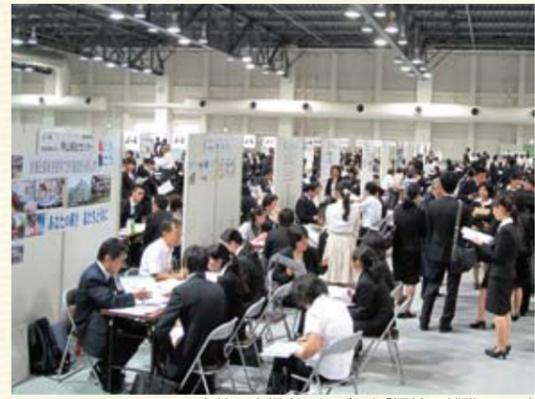
**求職者・事業所へのサポート強化**

福祉現場への就職を希望する学生・求職者と事業所が面談しながら就職相談を実施する合同就職説明会について、従来の年2回の「福祉の就職フェア」開催に加え、姫路・尼崎・明石の各地で追加実施した。福祉業界では県内最大規模の就職イベントで、平成21年度以降、延べ5,979名の学生・求職者が参加した。

また、インターネット上で、求人情報を公開できるシステム「福祉の仕事」については、操作が難しいという声を受け、手順を分かりやすく解説したマニュアルを整備(※)するなど職業紹介の機能を強化した。

さらに、単独で職員採用や研修を実施することが難しい法人もあることから、複数の法人が共同して採用説明会や職員研修を行う際に補助を行う「複数事業所連携事業」や、学生や求職者の職場体験の受け入れに応じて施設への補助を行う「職場体験事業」を進めてきた。

「複数事業所連携事業」では、図表2のとおり、平成21年度から23年度にかけて多くの事業所がユニットを



大勢の来場者でにぎわう「福祉の就職フェア」

組み、「職員の専門性の向上を図る研修事業」「職員採用のための福祉養成校との情報交換会」「合同求人説明会」などを企画・実施した。

小規模の事業所が単独で実施することが難しい前述のような取り組みが県内各地で実施されたほか、副次的な効果として、事業所の垣根を越えて地域内の連携や職員同士のつながりが

図表2 兵庫県内での「複数事業所連携事業」の取り組み状況

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	計
事業所同士グループ(ユニット数)	37	37	21	95
参加事業所	243	269	204	716

強化された。

また、「職場体験事業」では、平成21年度から23年度(11月末)にかけて、県内の165法人が、691名の学生・一般求職者を延べ3,336日間受け入れた。

学生・一般求職者を施設や事業所に迎え入れ、それぞれの福祉現場の実際を知ってもらうこととどまらず、中には職場体験をした人を採用した事例が報告されたことから、求人・求職の双方の出会い・マッチングのきっかけとしても一定の効果のある事業だったといえるだろう。

一方、学生・一般求職者に向けた求職者支援も強化。具体的には、①就職ガイダンスの実施、②福祉の仕事ガイドブックの作成、③ハローワーク巡回相談会の開催、④職場体験事業の登録受付、⑤介護福祉士等の有資格者に特化して就職支援を進める「潜在的有資格者登録バンクの運営」である。

このほか、介護福祉士などの福祉資格をとるための修学資金貸付事業など、プログラムに基づく新規事業に取り組んできた。

※求人情報システムの操作マニュアル



ルを希望する方は兵庫県福祉人材センターまで(TEL078-271-3881)

**福祉の仕事の魅力**

県民に福祉の仕事のやりがいや伝えることも、福祉分野への就労を促す大切な取り組みである。平成20年度以降、中学生を対象とした「福祉体験講座」のサポートを継続した。また、平成23年度は、関係機関が連携協力して「ひょうご福祉・介護のしごと魅力発見キャンペーン2011」を展開、各地でさまざまな啓発事業

**Information**



「福祉の仕事ガイドブック」福祉の仕事や資格を分かりやすく紹介。「福祉の仕事DVD」県内の福祉事業所で働く現場職員の声から、福祉の仕事の実際と魅力を伝える内容。中高生生の福祉学習にも活用できます。

ガイドブック&DVDのお求めは  
福祉人材センターまで ☎(078)271-3881

やイベントを実施した。県社協では、キャンペーンの一環として、福祉への理解や活動経験のある著名人を招いて「福祉講演会」を開催するとともに、高校生や初心者ターゲットとした「福祉の仕事DVD」の作成を行った。

**誇りとやりがいを持って働くことができる職場づくり**

人材確保と並んで大切なのは、働いている職員の専門性を高めることと、福祉現場の第一線で働く職員が誇りとやりがいを持って働くことができる職場づくりを進め、人材の定着を図ることである。

これに向け、県社協が力を入れて取り組んでいるのが各職場での職場研修の支援である。具体的には「職場研修支援事業」として、職場研修支援員の事業所への派遣、経営者・中間管理者・研修担当者の各役割に応じた研修の開催や職場研修の手引きの発行などを行ってきた。

同事業を活用した現場の方々からは、「職場研修の進め方が良くなった」「研修担当者として一人で悩んでいたけど、職場ぐるみで考える

ことが大切だとわかった」「研修の充実に向けてできる次の一手が見えてきた」という気づきの声が上がってきている。

これらの声を裏づける事業評価として、平成23年度に「職場研修の定着に関する調査」を実施したところ、各職場での研修実施率は大幅に向上したが、現場指導できる職員の育成が課題であることがわかった。この結果を踏まえ、各職場でOJTを実践するための考え方や手法を学ぶことを目的とした「新任職員育成のためのOJTハンドブック(仮称)」の発行を予定している。

このほか、「介護職員の確保・定着支援事業」では、第一線で活躍する介護職員が専門職としての「自信」と「誇り」を持って働き続けることを支援するため、経験年数ごとにスキルアップを図る研修を企画・実施した。

さらに、対人援助サービスである福祉の現場では、精神的な不調が離職原因の一つになることもあり、各法人でのメンタルヘルス体制整備を促すため、福祉人材センターにメンタルヘルスアドバイザーを配

置し、県内法人・事業所の現況調査、アドバイザーの派遣、メンタルヘルス対策研修会の開催などを行ってきた。

**Information**



「人材も組織も育つ職場研修」県内の実践事例から職場研修の手順までわかりやすく紹介。県社会福祉研修所のホームページからダウンロードしていただけます。  
<http://www.hyogo-f-kensyu.jp/syokuba/index.h>

**利用者の安心につながる福祉サービスづくりに向けて**

厚生労働省の有効求人倍率をみると、平成19年度から22年度にかけて人材確保の困難さは若干改善しているといえる。また、介護労働安定センターの調査によると、職員の離職率は、平成19年度の21.6%から22年度には17.8%に改善している。

■図表3 有効求人倍率(厚生労働省の調査より)

	平成19年度	平成22年度
全産業	0.97	0.51
社会福祉専門職	1.53	1.19
介護関連職	2.10	1.38

※有効求人倍率は、求職者1人に対する求人の件数を示す  
→有効求人倍率が1より小さければ求人数が少なく、1を超えていれば求人数が多いことを示す。

一時期の極めて深刻な人材難を脱したこともあり、プログラムに基づく各種の緊急対策事業は、今年度をもってひとまず終了となるが、今後も福祉現場に優れた人材が多数必要なことには変わりがない。

これまでの取り組みからみえたこれからの施策・事業のポイントは2点あげられる。

1点目は、各施策・事業をつなげて好循環を生み出す視点である。働きやすい職場づくりが、福祉人材の定着を促し、職員が生き生きと働く姿が広く知られることが、次の世代の福祉の担い手づくりにつながる。

2点目は、こうした好循環を生み出すためにも、行政、福祉事業者、職能団体や雇用関係団体などの関係

者が一丸となることである。人材の確保・定着は、第一義的には職員を雇用する経営者の努力と責任で取り組まれるべきものであるが、個々の事業所だけで解決できる問題だけではない。特に、人材確保の大きな壁になっている適正な給与水準の確保や専門性を高める研修体系づくり、福祉職の社会的な評価や認知度を高める取り組みなどは、引き続き国・県を中心に関係団体を取り組みを進める必要がある。

最後に、福祉の人材確保・定着は、福祉職場で働くすべての職員と組織全体にとって重要なものであるが、福祉サービス利用者一人ひとりのその人らしい質の高い生活の実現が最終目標であることも忘れてはならない。

県のプログラムが終了する次年度以降も、県社協は2015年計画に掲げた「質の高い福祉サービスの充実・開発を支援します」というアクションプランのもと、福祉現場からみえる課題についてさまざまな関係団体に連携を呼びかけながら、協働での問題解決や政策提言を進めていく。

**社会的評価が人材確保と定着の鍵!**

昨年11月、「ひょうご福祉・介護のしごと魅力発見キャンペーン2011」の一環で、県介護福祉士会主催のC-1グランプリ\*が県内で初めて開催されました。この大会で感動したことは、出場者たちの利用者への心のこもった介護への姿勢であり、熱心で真摯な取り組みでした。兵庫県知事最優秀賞や介護福祉士会賞を受賞した人たちの喜び姿もみられました。それは、利用者と関係者の「ありがとう」という言葉だけではなく、社会的立場にある人から評価を得た喜びでもあったのです。

介護福祉士・社会福祉士が誕生して23年が経過しました。この間に福祉人材センターが実施してきた人材確保・定着事業は、求職者向けのケアワーク講習会や座談会、介護職内定者講習会、事業者向け福祉人材確保セミナー、学生のための福祉職場就職セミナー、潜在的有資格者登録バンク、職場のメンタルヘルス整備事業、各種調査等、数多くあります。そしてこの3年間は、県の福祉人材確保対策推進プログラムも実施されてきました。その結果、利用者の人権擁護やサービスが向上し、職員の量的確保も一定実現しました。しかし、現在も「人材確保と定着」は大きな課題です。それは、利用者のニーズや制度変更

より、有資格者の確保が重要になってきたからです。解決策は「待遇(給与)」だといわれています。

確かに、専門職要件の一つは「社会的承認」であり、国家資格の評価尺度は「業務独占」と「待遇」にあります。けれども、その裏付けとしての「実力」評価が重要です。それは、ケアの質を広く公の場で競い合って、「社会的立場にある人から認められる」ことです。

今、改めて求められるのは、能力や努力への社会的評価であり、職員が介護・福祉サービスへの「誇り」と「自信」を持てるようになるための支援ではないでしょうか。今後もさまざまな形で福祉サービスの従事者が評価を得られる機会があれば、努力と研鑽の継続が図られ、勤務の定着にもつながる事でしょう。

※C-1グランプリ  
福祉・介護の啓発事業として開催されたイベント。介護現場で活躍する職員が集い、介護技術部門、写真部門、事例部門の各コンテストに臨んだ。

神戸女子大学 健康福祉部 教授  
富永 雅和さん





## 宍粟での新しいつながりのカタチをつくる

県内2番目の広大な面積を持つ宍粟市は、高齢化率が27%を超え、限界集落化していく地域が増えている。かつてない形で地域でのつながりの希薄化や世帯の縮小化が進んでおり、こうした状況に対応していくために宍粟市社協では、人と人とのつながり、地域の支え合いの大切さを見直し、地域での新たなつながりのカタチをつくるための「第2次地域福祉推進計画」(愛称「つながりふくしプラン」)を昨年8月に策定した。

### 福祉連絡会で地域のつながりを

同計画の策定にあたり、市社協では、住民に身近な自治会域での支え合い活動に向けた「自治会福祉連絡会」の組織化と活動強化を図るため、全自治会からアンケートをとり福祉活動の実態を明らかにした。調査結果から7割以上の自治会で福祉連絡会の組織化

が進んでいるが、それぞれの地域の実情や抱える課題が大きく異なることが明らかになった。そこで自治会での住民主体による組織づくりを進めていけるよう、3つのモデル(ネットワーク型・福祉部型・住民参加型)を提案。まずは、住民福祉座談会を通して、生活福祉課題を住民同士で話し合いながら、それぞれの地域にあった活動を進めていける組織づくりを目指している。

### 限界集落化していく地域への支援

この計画のもう一つの大きな特徴は、限界集落化していく地域への支援だ。宍粟市でも近年、限界集落化していく地域が増えている。そこで、そこに住む人たちの思いである「住み慣れた地域でいつまでも自分らしく暮らし続けたい」という願いを実現するため、「出前ふれあいサロン」の実施や「暮らしの何でも相談所」の設置など、地域の拠点整備



住民と社協がいっしょに進めていく「出前ふれあいサロン」

### 地域の特性に合わせた福祉活動を

第1次計画では、市町合併後、一つの自治体、一つの社協による地域福祉の推進を課題に策定したが、今回の計画では合併が軌道にのり、改めて4支

今年、合併後7年目を迎える宍粟市では、中山間地域特有の多くの課題に直面しています。そこで宍粟市社協では課題克服に向け、宍粟での新しいつながりのカタチをつくることを目指して、昨年第2次地域福祉推進計画を策定し、愛称「つながりふくしプラン」と命名しました。誰もが安心して暮らせるまちづくりには多様な場でのつながりが不可欠です。自治会域や市全域での福祉や支え合いのつながりづくりを目指し、市民や行政等、関係者の協働の触媒役として機能が発揮できるよう取り組んでまいります。



宍粟市社会福祉協議会 会長 鶴崎 和宏

とよおかオープンガーデンショーのメンバーを中心に、東北の被災地に木製プランターの寄せ植えを贈る活動をしているよ。長い年月をかけて自然界に復帰した天然記念物コウノトリと、被災地の住民が失意の中から立ち上がろうとされている姿を重ね合わせて「コウノトリの箱庭」と名付けられたんだって。



## みんなでつくるひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする取り組みを紹介します。

### 但馬からの思いをかたちに

昨年5月から6月にかけて豊岡市日高町を中心に開催された「第10回とよおかオープンガーデンショー」は、毎年、各地から大勢の人が訪れる豊岡市の一大イベントだ。オープンガーデンショー実行委員会の代表を務める北井進さんは、東日本大震災の直後という事もあり、中止も考えたという。しかし、北井さんは、地震発生以来、毎日流れてくるテレビの映像に衝撃を受け、「私たちにできることが何かないか」と考え、「オープンガーデンショーの開催を通じて、木製プランターの寄せ植えを被災地に贈れば、少しでも心が安らぎ喜ばれるのではないか」と思いついた。

### コウノトリがつなぐ但馬と被災地

ガーデンショーの開催と同時に、参加団体が展示する各ガーデンに「コウノトリの箱庭」と名付けた寄せ植えのサンプルを設置し、募金を集めた。また、地元の方々に箱庭を購入していただき、それらの資金を

～兵庫・但馬国から被災地へ～

## 「コウノトリの箱庭」運動



コウノトリのイラストは北井さんのデザイン



8月宮城県岩沼市災害ボランティアセンターへ寄贈

もとに、箱の制作や色塗り、イラスト、文字書き、植栽など呼びかけ団体の人々の手により準備が進められた。但馬の人々の思いが表現された「コウノトリの箱庭」は、昨年6月に宮城県東松島市へ兵庫県からのボランティアの手で、また、8月には岩沼市へと各10箱が届けられた。後日、岩沼市の仮設住宅の方から「自分で寄せ植えしたい」という要望が届き、10月に希望者24世帯に贈られた。そのお礼として、「コウノトリの箱庭」からの「生きる力」がありとうございます」などのメッセージや写真が届いた。さらに、日吉老人会、手芸部から手編みの品々が贈られた。

### 取材を終えて

普段から地元を愛し、公共地などをきれいにする活動をしてきた住民ならではの活動です。地域活動を通じた日ごろのつながりがあってこそ、こうした時に力を発揮できるものですね。北井さんは、「但馬のイチロー」というブログで、箱庭運動のほか、地域づくり活動を日々発信されています。今後の活動報告に注目しましょう。

### 「コウノトリの箱庭」運動本部

代表：北井進 ☎090-4569-9573 豊岡市日高町日吉113  
呼びかけ人(団体):日高町花と緑の協会、  
とよおかオープンガーデンショー実行委員会、  
マロニエの森クラフトグループ、まちかど発信局  
<http://blogs.yahoo.co.jp/machikadotajima/47781.html>

り、宮農組合と製菓会社から、神鍋絆餅が寄贈されるなど、但馬発の活動はますます広がっている。北井さんは、「今後は、被災地の人々と四季を通じて心の交流をするなど、無理のない支援をしていきたい」と話している。遠く離れた被災者の暮らしに思いを寄せ、できることを少しずつ持ち寄った住民発の運動が花開いている。

部(旧町)の地域特性に合わせた地域福祉の課題が出てきたため、「支部地域福祉推進委員会の役割や機能を強化。」支部社協から版の発行や「支部計画の策定など、支部発の福祉活動を進めている。自治会福祉連絡会の強化や限界集落化していく地域への支援など、この計画が絵に描いた餅にならないよう、宍粟での新しいつながりのカタチをつくる実践に期待したい。

**NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸**

**岩手県・大槌町で住民主導のプロジェクトがスタート! 「よったんせ笑いの弁当会」& 「よったんせ男の調理室」**

昨年の9月から、岩手県大槌町の仮設住宅住民の支援に当たるLSA(生活復興相談員)等50~60名を対象に、実践研修を月1回のペースで行っています。研修は、さわやか福祉財団とともに、被災者の自立に向けた支援のあり方について阪神・淡路大震災の経験を教訓に実施。このたび、支援活動プログラムとして、「よったんせ、笑いの弁当会」「よったんせ、男の調理室」がいよいよ数か所の仮設集会所で開催される運びとなりました。

「よったんせ笑いの弁当会」は仮設住宅で暮らす住民同士が、「よったんせ男の調理室」は仮設外の住民が、仮設支援として取り組みます。

「生かされた命を役立てたい」。被災者から絞り出されたこの言葉が、私たち外部支援者と共働きあい、これらのプログラムを生み出しました。月1回の大槌町通いの足どりをますます軽くさせてくれます。(コミュニティ・サポートセンター神戸 中村 順子)



仮設住民が呼びかける「よったんせ笑いの弁当会」チラシ

**兵庫県からつなぐ被災地支援**

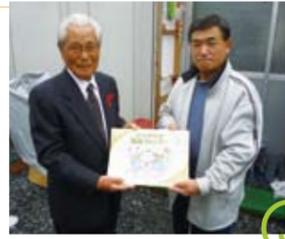
兵庫県内の社協、社会福祉施設、NPO、職能団体等の救援活動を紹介し



**たつの市社協**

**童謡の里たつの 赤とんぼの歌詞添え「福祉カレンダー」を気仙沼市へ**

宮城県で被災地支援に携わった2名の派遣職員の報告を受け、発災から6か月を迎えた翌日の理事会で、仮設住宅入居者同士の会話のきっかけづくりや癒しの一助になればと「福祉カレンダー」を作製し、気仙沼市の被災者にお届けすることを決定しました。



ボランティアの絵手紙付の福祉カレンダー

絵手紙ボランティアの協力を得ながら社協理事、民生委員らによるワーキングチームで作製協議を重ね、完成した11月7日、気仙沼市社協会長を通じ、計500部を市内の仮設住宅自治会長にお渡ししました。

年始には、ある仮設住宅の住民の方から感謝のハガキが届くなど、「明日の笑顔に向けて」届いた思いを一同嬉しく思っています。

歳末事業では、気仙沼市に届けたほぼ同じものを市内の一人暮らし高齢者ら3,000名余りの方に安否確認を兼ね届けました。

同じ暦を見ながら、たつの市から被災地を思い、復興への気持を一つにしています。そして今日も、一日の始まりに暦を見ます。(たつの市社協 石堂 博晴)

**兵庫県社会福祉士会**

**福祉相談会からコミュニティづくり支援へ**

兵庫県社会福祉士会は、震災直後から義援金の募集と、被災地での支援活動が可能な会員の登録を呼びかけ、災害支援活動を開始しました。

一方、日本社会福祉士会による連絡調整のもと、兵庫県からは4月1日より宮城県東松島市の地域包括支援センターへ社会福祉士の派遣を開始しました。その後、宮城県南三陸町、石巻市、岩手県大槌町、山田町、陸前高田市へ派遣先を拡大し、これまでに本会から延べ250名、



陸前高田市の地域包括支援センターと打ち合わせ

全国では延べ3,400名の会員が被災地で活動しています。

当初の活動は、地域包括支援センターの相談業務として、避難所等へ巡回して福祉相談を行い、福祉ニーズを集めて地域包括支援センターにつなぐ役割を担いました。

現在は、仮設住宅への訪問調査を重点的に行うとともに、お茶っ子会と呼ばれる介護予防とコミュニティづくりの支援活動を3月末まで展開することとしています。

(兵庫県社会福祉士会 岡本 和久)

**NPO法人エフエムわいわい**

**コミュニティの絆を再生するラジオ局とともに歩む**

東日本大震災により通信インフラや防災無線が破壊され、被災者への情報伝達手段が失われる中、必要な情報を届ける災害ラジオ局が次々に立ち上がり、震災から10か月以上が経過してもなお10数局が放送を続けています。そして、そのほとんどのラジオ局は放送の経験のない住民や行政職員が必死になって活動を続けているのです。



「ラジオ局の今後を住民と支援者が一緒に考える会」を開催した南相馬災害エフエム

災害ラジオ局が届ける情報は被災者が災害を生き抜く上での命綱の一つです。しかし、災害ラジオ局の役割はただ情報を伝えることだけではありません。復旧、復興の中で大きな声ばかりが取り上げられるのではなく、小さな声をコミュニティに届け、まちづくりに反映させていくことが大きな役割です。

阪神・淡路大震災時に被災外国人に情報を伝えることから始まったコミュニティラジオ局「FMわいわい」は、被災地で放送活動を続けている仲間を訪ね、時間をともにし、人と人の絆を育むコミュニティのラジオ局になっていくことの支援を続けています。(FMわいわい 日比野 純一)

このコーナーでは、県内の社協職員など“地域福祉を進める人々”の活動を取り上げながら、ワーカーとしての想いを伝えます。

地域を駆ける! ワーカー物語

銭湯のようなホッとできる、温かな人の和をつくりたい!!

ワーカーとしての原点は?

私の家の隣は銭湯でした。「最近、〇〇さん見ないけど、どうしてるんやろ」などの会話が飛び交い、高齢者の多い私の町にはなくてはならない憩いの場所でした。ある時、のぼせて倒れたおばあちゃんを家まで送ったことがありました。曲がって小さくなった背中を力いっぱい擦ってあげたときのおばあちゃんの「ありがと」という言葉で気持ちが、ホッととなったことを覚えています。今思えば、そんな生活が私に地域で生きる人のつながりの大切さを教えてくれたように思います。

地域福祉を進める中で一番印象に残るエピソードは?

3年前に立ち上げ支援からかわった「男性介護者きたいの会」のこと。長年、重度の奥さんを介護されている男性が、「苦しみやつらさは



「男性介護の会」男のクッキング

介護の重い軽いではない。自分が一番しんどいと思ってきたけど、会に来ることで皆それぞれにしんどさを抱えていることを知った。どうせなら前向きに明るく生きていきたいと言われました。大変な介護生活を送られながらも、仲間によって元気づけられ一歩ずつ前進されていく姿はとても力強く、同じしんどさを抱える当事者によってエンパワメントされていくことを実感した瞬間でした。今は新たに「若年認知症のつどい」を企画し、当事者のホッとできる場づくりに取り組んでいます。

今ホッと活動&力を入れたい活動は?

今年度に育児休暇から復帰し、地域福祉担当とボランティア担当を兼務しています。

地域のボランティア活動は、福祉や環境、防犯などテーマで結びついて取り組む活動と、自治会や地区社協など地縁で結びついた活動と、活動の形に違いはありますが、「自分たちの住む地域を良くしていきたい」という共通の思いで活動する大切さを感じています。特技を生かしたボランティアと地域のサロンのつながりづくりの仕掛けとして「ボランティアお品書き」を作成したり、サロン同士の横のつながりづくりを目的にサロン活動発表会を実施してきました。災害ボランティアをきっかけに地域活動にデビューされた方もたくさんおられ、「気軽に、楽しく、ボランティア」をモットーに、地域で生きる人と人の和づくりに力を入れていきたいと思っています。

ワーカーとして大切にしていることは?

「急がば回れ」。信念と情熱をしつかり持ちながら、柔軟な心とフットワークでどんなことにも向き合っていきたいと思っています。

取材を終えて  
人のつながりの大切さを実感しているからこそ、当事者の気づきから力強い前進にまで寄り添うことができた兼田さん。持ち前の明るさで今日も地域をエネルギーに駆け回っています。

伊丹市社会福祉協議会

かねだ みき 兼田 美紀さん

Personal History

- 23歳 伊丹市社協に入局  
コミュニティワーカーとして地域福祉ネット会議、地区ボランティアセンター立上げ支援、地域共同ケア等を担当
- 25歳 男性介護者の会の立ち上げ支援にかかわる
- 28歳 育児休暇から復帰し、ボランティアセンター担当を兼務  
市民福祉活動のあり方研究会、当事者会支援等を担当



### 県社協理事会にて 来年度の県社協事業方針を協議

去る1月18日、第224回理事会が開かれ、平成24年度の県社協事業方針について協議が行われた。平成24年度は、「県社協2015年計画」の推進2年目にあたり、全県スローガン「認め合い」ともつながり支え合う「みんなであつくるひょうごの福祉」のもと、同計画の各アクションに基づき事業に取り組んでいくことが確認された。

また、東日本大震災の被災地支援については、被災地の復興ステージに応じた支援を適時、行っていくことが確認された。今後、2月に行われる各部会協議を経て、3月の理事会・評議員会で事業計画・予算とともに諮る予定である。

### I 2015年計画に基づいた取り組み

1. 「ストップ・ザ・無縁社会! 縁豊かな地域づくり」(仮称)全県キャンペーン  
※キャンペーンの一環として、「第6回全国校区・小地域福祉活動サミット」を開催
2. 県社協アクションプランの取り組み
  - 1) 市町域での地域福祉の推進力を高める支援を強化します
  - 2) 多様な主体がつながり、資源が循環する仕組みづくりをすすめます
  - 3) 質の高い福祉サービスの充実・開発を支援します
  - 4) 「暮らしのセーフティネット」の充実・強化を支援します

### II 県社協機能・経営基盤の強化

### III 東日本大震災の被災地の復興 ステージに応じた適時・適切な支援

## 地域ボランティアのための ミュージックセラピスト養成講座を開催 ～ミュージックセラピーグループ・ハーモニー～



**愛ちゃん** 愛ちゃん、今回は平成23年度NHK歳末たすけあい義援金を活用して取り組んだ「ハーモニー」の活動を紹介しますよ!

**ミュージックセラピスト**は音楽の持つ力を活用して人とかわり、人の心と体の健康を維持・増進する支援をするんだよね?

**そうだね**。同会では、ボランティアを対象にミュージックセラピストの養成講座を実施したんだ。ミュージックセラピー体験や歌・動き・楽器のワークショップ、模擬セッション発表など3回に分けて実施されたよ。最後には修了式もしたんだ!

**なるほど**、地域ボランティアを養成することで、ボランティアの輪を広げているのね。修了者はスタッフとして活動できるのかな?

**もちろんだ**。会員になると活動スタッフとして社会福祉施設や地域福祉センターなどで活躍しているよ。会員は58名。主婦をはじめ、いろんな職業や資格を持った会員がたかさんいるんだ。活動範囲は明石市から尼崎市まで約20か所。昨年は、東日本大震災で被災された方たちのケアに、福島



体も使ったミュージックセラピストの養成講座

**県郡山市の避難所へ出向いたんだ**。震災で受けたストレスによる心の癒しに有効なのよね? 避難所生活で疲れた心と体を癒すことができたんじゃないかしら。

**そうだね**。同会は阪神淡路大震災をきっかけに誕生したグループなんだ。複数のセラピストがチームを組んで、コミュニケーションの中からお互いの共感を深めてセッションを進める「ハーモニースタイル」の音楽療法をすすめているんだって。集団での音楽療法場面でもっとも効果的に機能するんだよ。

**セラピストと対象者だけでなく、対象者どうしのかかわりも含めた関係性を築けるといいよね**。大規模災害による被災者のストレス問題が報じられていることをみても、とても大切な取り組みだといえるわね。

**そうだね**。代表の岡部さんも「東日本へ被災者へのケアをもっとしていきたい」と言っていたよ。これからも、心と体のケアを必要とされている人たちの支援に、少しでも義援金が役立てられるといいな。

### 寄付について(お礼)

ご厚意に、心よりお礼申し上げます。

### 新生兵庫友の会から寄付

12月22日、新生兵庫友の会兵庫県庁OB会より本会に15万円が寄付された。寄付金は本会事業を通じて県内の地域福祉の推進に活用する。

### 兵庫県生命保険協会による 福祉巡回車の贈呈式開催



12月26日、兵庫県生命保険協会から、神戸市社協、芦屋市社協へ福祉巡回車が1台ずつ寄贈された。兵庫県生命保険協会からは、平成元年から毎年、県内の社会福祉協議会に軽自動車が増呈されている。平成23年度はこの2台のほか、宮城県南三陸町にも車両1台が贈呈された。神戸市社協の中西常務理事からは、「地域で活動するにあたって細い路地に入ることで利用できる車輛はありがたい。有効に活用していく」と謝辞が述べられた。



## みんなの広場

兵庫県社協の会員からの情報発信コーナーです

### クリック募金でみんなの気持ちを一つに

## 財団法人 兵庫県肢体不自由児協会

肢体不自由児協会は、次の事業で手足の不自由な人を応援をしています。

- 啓発事業** 「手足の不自由な子どもを育てる運動」絵葉書など頒布  
兵庫県肢体不自由児者美術展、ふれあいバザーなど
- 相談事業** 療育・更生相談・教育・医療・福祉施設等との連携
- 援護事業** 連合・心理療育キャンプ後援・助成、高校生奨学援助、関係施設の製品頒布支援、青年グループ会員諸活動の支援
- 交流事業** 親睦交流会、愛と友情の旅、声かけ運動など
- 地域活動参加** 青年グループ会員所属団体クリスマス会共催など
- 出版・頒布事業** 会報(兵肢協)の発行など

共に生きる豊かな社会を  
手足の不自由な人たちへ愛を



### こんな取り組みをしています

### クリック募金 ～クリックごとに10円の募金～

当協会ではそれぞれの事業を充実させるため、多くの方のご理解やご協力を得たいと考え、ホームページ上でクリック募金を展開しています。

クリック募金は、協賛していただく企業や団体と、協賛企業のパナーをクリックをしていただく方の協力が必要です。

現在、協賛企業は8社です。協賛企業も募集しています。今後の一層のご協力をお願いします。

### クリック募金の方法

- 1 「兵庫県肢体不自由児協会」で検索→2 ホームページ画面を開く→3 協賛企業パナーをクリック→4 協賛企業ホームページが開くとクリック募金が成立

### かんたんクリック募金 ボタン操作の基本

- Tabキー (ボタン移動) + Enterキー (実行) = 指定したページが開く
  - Altキー + ← 左向き矢印キー = 前のページに戻る
- \*これを繰り返すことでマウスを使わず簡単にクリックできます。

### 連絡先

〒650-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1番1号  
兵庫県福祉センター 6階  
☎078-241-9907 FAX 078-241-9908  
E-mail hyoshikyo@nifty.com

アピールしたい活動の  
情報をお寄せください。

お問い合わせ先  
兵庫県社協 総務企画部 ☎078-242-4633 FAX 078-242-4153 E-mail info@hyogo-wel.or.jp

助成金情報

福祉活動等に対する助成金の情報です。詳細については、それぞれの問合せ先にご確認ください。

兵庫県遊技協同組合  
は〜とふるふぁんど支援金  
「ボランティアあしすと」部門

遊技時に出たごぼれ玉やホールからの寄付金などを積み立てた基金により、地域ボランティア活動の支援を行います。

**対象団体** 県内を主たる活動の場とし、5人以上のグループで活動している地域の団体またはボランティア団体(この他にも条件あり)

**対象事業** 環境保全や災害救援事業、地域の安全、防犯などにかかわる事業、青少年の健全育成事業、その他公益の目的と認められる事業で平成24年7月1日～平成25年6月30日までに終了する事業

**助成金額** 1件上限100万円※総事業費の4分の3以内

**締切り** 平成24年3月16日(金)

①② はあ〜とふるふぁんど事務局  
TEL078-362-8505

**URL** <http://www.hyoyukyo.or.jp/>

財団法人こども未来財団  
平成23年度

「コンサート・講演会等託児室支援事業」

コンサートや講演会など開催の間、乳幼児を預ける託児室を設置する主催者を支援します。

**対象団体** コンサート、研修会などを主催し、実施時間中に乳幼児を預かる臨時的託児室を設置運営する主催者

**助成金額** 1日あたり上限10万円

**締切り** 平成24年2月10日(金)

①② こども未来財団事業振興部  
TEL03-6402-4823

**URL** <http://www.kodomomiraizaidan.or.jp/>

PCソフトウェア 寄贈プログラム

NPO法人、公益法人、社会福祉法人を対象にわずかな手数料でソフトを提供します。

**対象事業** 【アドビシステムズ】NPO法人、社会福祉法人、公益法人

【シマンテック、マイクロソフト】NPO法人  
**寄贈ソフト** アドビシステムズ、シマンテック、マイクロソフト

**手数料** 各製品の市場価格の4～8パーセント  
① 特定非営利活動法人 日本NPOセンター

**URL** <http://www.jnpoc.ne.jp>

② テックスoup

**URL** <http://www.techsoupjapan>

研修・イベント

研修講座

杉山孝博Dr.の「認知症の理解と援助」

認知症にかかわる専門職、行政職員、企業関係者を対象に、認知症の知識をはじめ最近の動き、対応の仕方などを学びます。

**日時** 平成24年2月12日(日)10:00～16:00

**場所** 神戸市勤労会館

**参加費** 一般5,000円、「家族の会」会員4,000円

①② 「認知症と家族の会」兵庫支部  
TEL&FAX 078-741-7707

第3回スイーツ甲子園

一次審査、二次審査を通過した各施設・事業所で作られた自慢のスイーツを、企業バイヤーや製菓専門家が審査員となり評価・アドバイスします。

**日時** 平成24年3月3日(土)4日(日)各日13:00～

**場所** 神戸市中央区元町商店街6丁目

① 兵庫セルブセンター TEL 078-414-7311

今くらしを考える か・い・ご を!  
一かしこい生き方 in 西宮 2012

介護・医療現場の最前線にいる講師陣や介護家族がともに、介護と医療とご近所(地域)の今を学び、自分たちの「くらし」「生き方」を語り合います。

**日時** 平成24年3月4日(日)10:00～16:45

**場所** 関西学院大学G号館

**参加費** 3,000円(学生1,000円)

**講師** 三好春樹さん(生活とリハビリ研究所)、島海房枝さん(特養「あじさい荘」総合ケアアドバイザー)、長尾和宏さん(長尾クリニック)ほか

①② 特定非営利活動法人ついで場さくらちゃん  
TEL&FAX 0798-35-0251

第11回気づきを築くユニットケア  
全国実践者セミナー

全国の実践発表から、発表者と参加者がともに学び考え合うことを目的として開催します。

**日時** 平成24年3月10日(土)～11日(日)

**会場** 神戸学院大学 有瀬キャンパス

**定員** 800人

**参加費** 一般参加15,000円、

会員・発表者13,000円

**内容** 実践発表、現場実践支援講座など

① JTB東北ECデスク TEL03-5949-1351

② 気づきを築くユニットケア  
全国実践者セミナー実行委員会  
TEL022-727-8732

集合住宅での  
高齢者見守り支援活動研修会

訪問介護や通所介護などの居宅サービスのケアプランを作成する居宅介護支援事業者と住宅自治会とが連携した高齢者の見守り支援活動事業の普及・啓発を図る研修会です。

**日時**

**姫路会場**

平成24年2月15日(水)13:30～16:40

**神戸会場**

平成24年2月29日(水)13:30～16:40

**内容** 基調講演、パネルディスカッション

①② 兵庫県健康福祉部社会福祉局

高齢社会課 TEL078-362-3188

FAX078-362-9470

行事予定

2月2・9日 職場内研修担当者研修(Bコース)  
◆社会福祉研修所

7・10・17日 民間社会福祉事業職員退職年金  
共済事務説明会 ◆県内3か所(和田山、姫路市、神戸市)

10日 市町村協ボランティアセンター連  
絡会議 ◆県福祉センター

20日～ 老人福祉施設職員ゼミナール  
◆社会福祉研修所

21日 ホームヘルプサービス研究協議会  
(兵庫県ホームヘルプ事業者協議会主催) ◆県福祉センター

22・23日 接遇・日常マナーリーダー養成研修  
◆県福祉センター

28日 福祉の就職総合フェアinHYOGO  
◆神戸サンポーホール

29日 地域福祉コーディネーター配置社  
協連絡会議 ◆県福祉センター

3月2日 権利擁護部会 ◆県福祉センター  
障害福祉施設系事業所中堅職員  
研修 ◆社会福祉研修所

5日 リスクマネジメント研修  
◆県立のじぎく会館

13日 社会福祉法人経営計画策定研修  
(法人経営スキルアップ研修)  
◆県農業共済会館

13・21日 コミュニティワーク基礎研修  
◆社会福祉研修所

28日 県社協 第225回理事会  
◆県福祉センター

28日 県社協 第172回評議員会  
◆県福祉センター

NEWトロミーナ

～ベストバランスで楽しい食事をサポート～

飲み込むとむせられる方、そんな方には  
NEWトロミーナが、お勧めです。

特徴

- サッと溶けてなめらかなトロミに。
- 付着性が少なく、  
素材の味を損なわない。
- ダマになりにくく、作業効率がアップ。

株式会社ウエルハーモニー

TEL079-264-5534 FAX079-264-5574  
〒670-0802 姫路市砥堀 565

介護専門職の総合情報誌

おはよう21

専門職として、更なる熟達を目指す方々のための総合情報誌です。介護福祉士国家試験やケアマネジャー試験に関する最新情報や予想問題も紹介します。介護現場の様々な実践・創意工夫の中から「介護とは何か」を問い続けます。

■毎月27日発売・AB判・100頁 ■通常号定価950円(税込)  
■増刊号定価1,250円(税込) ■年間購読料13,500円(通常号12冊+増刊号2冊 送料・送料込)



中央法規  
Chuoohokai Publishing Co., Ltd.

大阪営業所

〒530-0041 大阪市北区天神橋4-8-12  
TEL.06-6351-9079 FAX.06-6355-3447